

名大の時間

コロナ禍の一年を振り返って

ろうか。本来ならば

オリンピックイヤーとして喜ばれ、親しまれる年であったはずだが、真っ先に思い浮かぶのはコロナ、マスク、外出自粛…。

私たちの生活と価値観が大きく揺らいだこの1年は、多く人にとって満足した年とは言い難いと思う。しかし私自身この1年を振り返ってみると、案外悪くはなかった、と思える

のである。

日本が前例のない感染症の流行によって混乱を極め、度重なる自粛と感染の恐怖によって不満を募らせ始めたのは昨年このぐらいの時期からである。それは私も例外ではなく、

大学には通えず、外出どころか生活のためのバイトすら自粛せざるを得ない生活にため息をつく毎日だった。しかし徐々にその

生活が当たり前にな

っていき、私たちの日常となった。元々インドア派の私はむしろこの生活が性に合っているのかも怖れない。慣れとは怖いものである。

この自粛期間中、読書や映画鑑賞など、新しい趣味が増えた。特に読書は元々好きだったため、この有り余る時間を贅沢に使用して4冊の本を読破した。さらに、生活リズムだけに、生活リズムだけ

は崩すまいと、毎日

大学に通っていた頃よりも規則正しい生活を心がけたことにより早寝早起きが習慣となりつつある。また、定期的に地の友人とリモート飲み会を開催している。コロナのための外出自粛によってこれまでよりも生活の充実を実感し、さらには遠く離れた友人とリモートではあるが会う機会が増えたというのはなんと

も



る。不満は募るかもしれないが、今私たちに求められるのは以前の生活を回顧することではなく、生活と価値観のアップデートだ。

2021

皮肉なことである。この1年を振り返って、不満がなかったと言えれば嘘になる。しかしそれを普通の生活では経験できない体験をしたと捉えることもでき

年は様々なことを寛容に受け止め、誰もがこんな生活でもまあいいか、と思える日が来ることを願ってやまない。

看護学科4年

小山由季

昨年(2020年)と言え、皆さんは何を思い浮かべるか